

# 四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第40号(平成28年3月発行)

平成27年12月16日(水)に平成27年第4回定例会が開会され、12月25日(金)に一般質問と議案6件の審議が行われました。

一般質問では、石川善己議員(四日市市議会選出)と廣耕太郎議員(三重県議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

## 主な質問・答弁要旨

石川 善己 議員



○ **利用者のニーズに応え、利便性の向上を図り、四日市港の利用拡大につながるよう、ポートセールスで積極的にPRしていくことが大切だと考えるが、これまでの取組と今後の取組について伺いたい。**

◎ 港湾間競争が年々激しくなる中、船会社・荷主企業から選ばれる港であるためには、利便性の向上が欠かせない。そのため、管理組合では、コンテナクレーンの増設や物流センター建設のための土地造成を進めている。こうしたハード面に加えてソフト面においても、「基幹航路等コンテナ船寄港誘致補助金」や「グリーン物流促進補助制度」等のインセンティブを設けている。さらに、臨港道路霞4号幹線等の予算確保や早期整備のため、11月に国土交通大臣に直接要望をしてきた。また、利便性向上の取組を船会社や荷主企業にきちんと認識していただくために、四日市港セミナーや説明会を開催したり、新聞広告や「四日市港の動き」等の紙媒体、ホームページによる広報など、できる限りの手段を使って広くPRしさらなる利用拡大につなげていく。

廣 耕太郎 議員



○ **管理者は、11月にタイを訪問し、バンコク市内で開催された四日市港セミナーで講演をしている。伊勢志摩サミットを控え、三重県や四日市港をアピールする絶好のタイミングだったと思うが、トップセールスにどのようなねらいを持って取り組まれたのか。**

◎ 荷主企業に四日市港利用を働き掛けたり、船会社に対してコンテナ定期航路の誘致を行うに際して、トップ自らがセールスを行うことは、非常に有効な手段であると考えている。四日市港セミナーのレセプションでは、参加者一人ひとりに、四日市港の利用や新規航路開設を働き掛けるとともに、意見や要望を直接伺える大変貴重な機会であると思っている。伊勢志摩サミットは、三重県を世界に売り込むまたとないチャンスであり、バンコクの講演でも四日市港の利用に直結するものづくり産業だけでなく、三重県の伝統文化や精神性、素晴らしい食材や工芸品、観光地もPRしてきた。サミットを契機として、三重県に集まる注目を一過性にすることなく、県の施策と管理組合の施策をうまく連携させながら四日市港の利用増につなげていく。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。